

MITA

2014/6/4

Vol. **51**

水島ポートニュース

Mizushima International Trade Association



特 集

水島港のまち、倉敷・玉島の 両商工会議所新会頭に聞く



Contents

- ・倉敷/玉島商工会議所新会頭に聞く
- ・水島港・新章START
- ・玉島ハーバーアイランドにマリンタワー整備
- ・東京で水島港セミナー開催

水島港のまち、倉敷・玉島の両商工会議所新会頭に聞く

水島港を有する倉敷・玉島の両商工会議所では、平成25年秋の議員改選に伴い会頭が新たに選任されました。今回の特集では、就任にあたり両会頭に水島港への思いについて伺いました。

水島港と倉敷の一体化を目指して

今年、創立85周年を迎える倉敷商工会議所の会頭に就任し、企画特別委員会の設置や全職員との面接を行うなど組織の改革強化に着手しました。同時に、商工会議所の立場を考え、倉敷の産業発展と街の活性化に必要なことについても熟慮しました。倉敷が誇るものは何かと考えたとき、それは美観地区であり、倉敷中央病院を中心とした民間の医療・福祉の充実ぶりであり、そして水島港を含む水島コンビナートであると考えました。これら3つの柱にさらに磨きをかけ、改めて行政とともに若者に魅力を感じてもらえる

倉敷を創造することが私の根本理念です。

この3つの柱を強くすることが倉敷の発展に不可欠であり、商店街の振興やまちの賑わいも「水島」が元気になることが前提で、その延長線上に市政の重要課題であるJR倉敷駅周辺の高架化の実現があるのと言うまでもありません。水島コンビナートには250余りの企業が集積し、うち20余りの一部上場企業があります。この企業の活用、例えば、産業観光や企業のネットワークを利用したコンベンションの誘致など生産と雇用の現場にとどまらない役割を期待しています。

倉敷は、元々、ヒューマンサイズの街であり、自転車で15分も進めば田園地帯に出ます。この人間らしく生きられるコンパクト感を活かした倉敷を創造したいと念願しています。一方、倉敷と水島は遠いイメージがありますが、この距離感を縮める努力も必要でしょう。そこで、その最も効果的な手段となるのが水島臨海鉄道のJR倉敷駅への乗り入れです。幸い、第三セクターの水島臨海鉄道株式会社の社長は倉敷市長であり、乗り入れに向けた市長の決断に期待しています。乗り入れが実現すれば、沿線の開発も進み住宅の建設や企業の立地も進み、定住人口の増加と消費が喚起されるはずです。

昭和18年に旧三菱重工業航空機製作所の手で開業されて70年。水島港とコンビナート企業の水島が、町屋



倉敷と水島を結ぶ水島臨海鉄道の倉敷市駅。右奥に見えるのは工事中のJR倉敷駅ビル。JR倉敷駅への乗り入れが実現すれば水島へのアクセスが格段に良くなる。

県全体で農・商・工のバランスが取れた発展を

江戸時代に備中松山藩の外港として栄えた玉島は歴史も古く、旧国道の通町商店街には映画館が数件立ち並ぶなど大変賑やかなまちでした。玉島港は高梁川下流に流れてくる土砂の堆積で遠浅が続く場所です。そこを徐々に埋め立てていき、玉島ハーバーアイランドの造成などを経て今日の形になっています（左地図参照）。私はこの地に生まれ育つたため、地元の人はこの地域に非常に愛着を持っていることを肌で感じています。地元の協力があつてこそできた港ですから、しっかり活かしてもらいたいと思います。

長年要望していた玉島地区と水島地区をつなぐ水島港水島玉島地区臨港道路（新高梁川橋梁）が、平成23年に着工し、平成28年度の完成に向けてようやく形が見えてきました。玉島・水島地区間の物流の効率がよくなるだけでなく、玉島地区の生活道路への大型車両の通行量が減ることは地元住民にとって喜ばしいことです。一方、せっかく作った橋を活用してもらうためには、玉島ハーバーアイランドへの企業誘致が大きな課題です。最近では日本エアロフオージ（株）の進出なども

ありました。実際は備品購入まで都市部の本社で一括して行う立地企業がほとんどであり、地元への経済効果のためにも、地域密着型企業の玉島ハーバーアイランドへの立地を望みます。

また、企業誘致には交通アクセスの良さが欠かせません。山陽自動車道で岡山ICから玉島ICまでかかる時間と、玉島ICから玉島ハーバーアイランドまでかかる時間が同じくらいと言われていますが、接続の悪さが企業にとって水島港が使いにくい理由のひとつになっているのではないのでしょうか。できれば玉島ICから港へまっすぐ接続する大型車両の通れる道路が欲しいですね。

【玉島港の変遷】



【大正5年】



【昭和34年】



【平成10年】

年代順に追うと、高梁川の中央にあった中洲が徐々になくなり、埋立地が整備されていく様子が分かる。



玉島商工会議所 会頭
原田 格二氏



倉敷商工会議所 会頭
井上 峰一氏

の文化と歴史を有する倉敷の町とより一体化すること、水島臨海鉄道がその未来図実現に向けた大きな契機になるものと確信しております。今後、MITAの皆様と共により良い倉敷を目指して参りたいと存じます。

水島港国際物流センター(株)が始める 水島港・新章 2014.4.1・START

当社は第三セクターとして、平成16年4月から10年間にわたり、構造改革特区法による特定埠頭運営効率化事業を行う第三セクターによる株式会社として、水島港玉島ハーバーアイランド6号埠頭の国際コンテナターミナルの管理運営を行ってきました。

平成23年4月の港湾法改正により国際拠点港湾となった水島港では、国の同意を経て平成26年1月20日に港湾管理者である岡山県から港湾運営会社の指定を受けたところであり、平成26年4月から6号埠頭の国際コンテナターミナル及び4号埠頭のユニットロードターミナルの一体的な管理運営を開始しました。

この港湾運営会社においては、国や県からの港湾施設の貸付期間が30年間となったことから、これまで以上に長期的な視点で効率的な設備投資や安定した経営管理ができるようになっており、また、複数の埠頭を管理運営することになったことに伴い、従来のコンテナ貨物に加え、ユニットロードターミナルにおいては完成自動車加わるなど、管理運営の対象となる港湾施設、取扱貨物の種類、量ともに増大しておりますが、当社が効率的なターミナル運営に努めることにより、船社や港運会社社の皆様にとつて、より使い易い港となると確信しているところであ

り、さらには水島港の競争力も強化されるものと期待しております。

また、当社の組織に新たに事業戦略室を設置し、荷主、船社、港運会社等との連携のもとで、水島港の利用促進のために、創荷、集荷活動等に重点的に取り組むこととしており、さらに、当社の取締役会の諮問機関として新たに経営諮問委員会を設置し、その提言等を踏まえ、より戦略的に水島港及び玉島ハーバーアイランドの物流対策に関わって参りたいと思います。

今後、世界の港湾の国際競争がますます激化することが予測される中で、当社は世界に開かれた水島港の一層の発展に向けて、お役に立てるよう、関係業界の皆様と共に頑張つて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



水島港国際物流センター株式会社の新体制

玉島ハーバーアイランドにマリンタワーを整備します！

玉島ハーバーアイランドの国際コンテナターミナル内に6階建てのマリンタワー（鉄骨造・延床面積512㎡）を建設します。平成26年度に着工し、同年度内に完成の予定です。

マリンタワーの1・2階は国際コンテナターミナル内で働く皆様のためのトイレや休憩所、3・4階は、事務所が整備され、5・6階には、水島港内を行き交う船舶の安全航行に欠か

せないポータルラジオ局が下津井の三百山山頂から移転する予定です。また、高さは地上約25mであり、津波等が起こった際には、避難場所としてもご利用いただけます。

マリンタワーの建設により、水島港が利用者の皆様にとつて、より快適で利用しやすいものとなるよう願っています。



三百山から
玉島ハーバーアイランドへ
ポータルラジオ局を移転



マリンタワーイメージ

ポータルラジオ局の業務

VHF無線電話を介して、直接船舶と入出港に関する情報通信を行うとともに、港内監視カメラやAISレーダ（船舶自動識別装置とレーダを組み合わせた装置）を利用して、船舶の動静を把握し、船舶の輻輳を防ぐための航行調整業務等を行い、水島港内を行き交う船舶の安全航行に必要なサービスを提供しています。

東京で水島港セミナー開催!!

平成26年3月14日、東京都文京区関口のホテル椿山荘東京において、114の団体・企業から250名を超える多くの方々への参加をいただいて、水島港セミナーを開催しました。伊原木岡山県知事（MITA会長）から、ハード・ソフト両面での取り組みを進めている水島港の機能強化に向けた最新状況を首都圏の荷主、船会社、物流企業など参加者にアピールし、また来年度から実施される新たなコンテナ貨物集荷に向けた支援制度などもPRしました。

セミナー開会に当たり、MITA会長として壇上に立った伊原木知事は、「産業の振興を通じて県民の福祉を向上することが私の公約であり、皆様方に水島港を利用していただき、利益を上げていただくことで結果的に政策目標につながるようになる。岡山県の産業振興の面で、本県の製造品出荷額の半分以上を占めている水島港の果たす役割は大変大きい。水島港を



開会挨拶をする伊原木知事

振興することは、本県の産業を振興することになり、産業の振興が進めば県民所得の向上、税収の向上、さらには県民の福祉の向上につながる。県では水島工業地帯の産業の活性化、競争力強化を可能にするため水島港の港湾機能の強化に力を入れており、利用者のメリットになる様々な支援制度を用意している。本日のセミナーを機に、更なる水島港の利用をお願いしたい。」と挨拶しました。

続いて伊原木知事は、「生き活き岡山の実現『国際拠点港湾水島港の取り組み』」と題してプレゼンテーションを行い、水島港の最新状況等を紹介するとともに、港湾管理者の取り組みとして、規制緩和や施設整備等による物流網強化、また輸出入コンテナの集荷に向けた新たな補助制度を説明するとともに、企業誘致の取り組みとして玉島ハーバーアイランドに立地した場合の優遇措置等を紹介しました。

続いて、水島港を利用して輸入貿易を行っている企業活動の具体事例として、和気郡和気町に本社を構える谷尾食糧工業㈱の横田健一取締役購買・物流部長が「利用企業から見た水島港の優位性」と題して講演し、為替相場が円安方向に動くことによる輸入コスト増に対応するため、神戸港利用から水島港利用にシフトすることで、ドレージコストや通関コストを削減し、国際競争力を強化している取り組みを紹介しました。



セミナーで説明する伊原木知事

レセプション状況

セミナー後には、逢沢一郎衆議院議員、池田道孝衆議院議員、加藤勝信衆議院議員、津村啓介衆議院議員、山下貴司衆議院議員、柚木道義衆議院議員、加藤浩久岡山県議会議員、神宝謙一岡山県議会議員が出席される中、レセプションを開催し、中谷庄吉中谷興運㈱代表取締役会長、村瀬勇人水島港運協会会長にご挨拶をいただき、水島港の利用促進について、多数の関係者と、和やかな雰囲気の中で意見・情報交換を行いました。



レセプション



講演する榎田取締役



今号の表紙 水島臨海工業地帯の航空写真です。水島港は背後圏に立地する基幹産業の競争力を支える国際物流港湾として発展していきます。